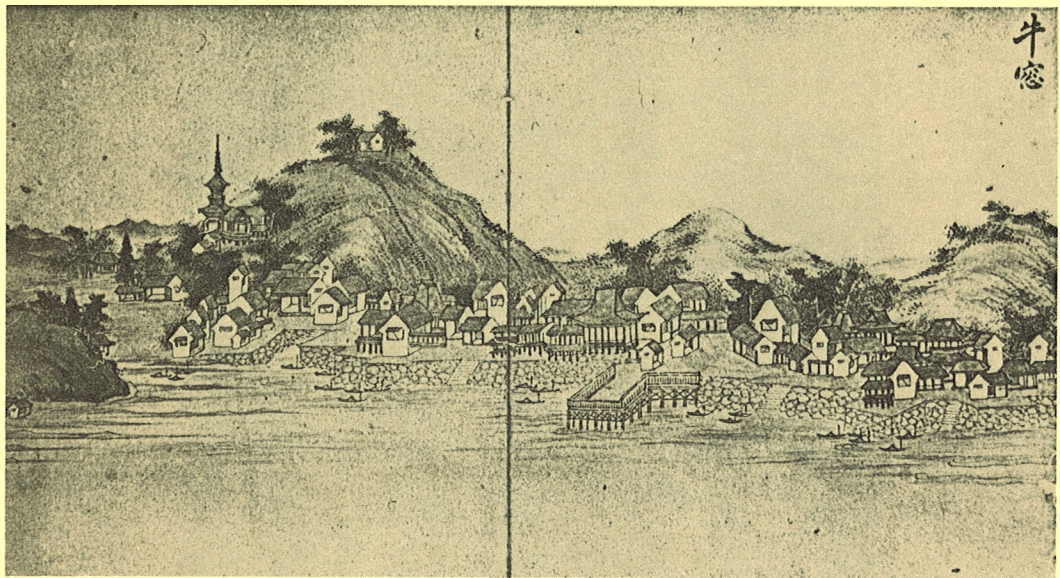


祝

朝鮮通信使 牛窓寄港350周年記念



牛 窓 町



← 約 40 cm →

サロシヨウクズ
槎路勝区図 (韓国国立中央博物館所蔵)

1748 (寛延元) 朝鮮通信使一行に画員として随行した李聖麟 (号蘇齋) 筆

— 朝鮮通信使牛窓寄港350周年を記念して —

牛窓と朝鮮半島とのつながりは古く、寒風の須恵器が伝来した飛鳥時代をはじめ、瀬戸内海の要衝として栄えた中世においては、経済、文化両面で深い関係を保っていたと言われます。

その中でも、特筆されるのが、江戸時代の「朝鮮通信使」の牛窓寄港で、500名にも及ぶ大使節団が前後8回にわたって牛窓に立ち寄り、文化交流を中心として、大いに国際的交流を図ったのであります。

その当時の交流の名残りや文化的遺産は、今だこの地に生き続け、今日の牛窓での地域文化に多大な影響を与えていることは明白な事実であります。

その「朝鮮通信使」が初めて牛窓に寄港したのが、1636年の11月であり、本年が350周年の記念すべき年にあたり、今回、これを記念いたしまして、ささやかではありますが記念行事を催すことといたしました。

これを機に、再び善隣友好の華が咲き、隣国として相互の理解と友好が深められるよう期待をいたすものでございます。

最後になりましたが、今回の記念行事の開催にあたり、格別の御理解と御指導をいただきました。在日大韓民国大使館文化院をはじめ、関係の各機関、諸先生がたに対し、深く感謝申し上げます。御挨拶といたします。

昭和 61 年 11 月 22 日

牛窓町長 新 地 勇

牛窓と朝鮮通信使

わが国の文化は、大陸からの伝来文化がその中心となっており、古くは、稲作の伝来、土器、石器、鉄器の伝来、仏教や漢字の伝来など、朝鮮半島を経由して多くの大陸文化が日本へ入ってきた。

そして、鎖国時代といわれる江戸時代においても、当時の徳川幕府は、朝鮮との交流だけは積極的に行い、長崎を窓口としたヨーロッパ文化の吸収以上に大きな役割を果たしてきた。

その中心になったのが日本を3回訪れた回答使と9回訪れた通信使であった。

牛窓町と朝鮮半島とのつながりも深く、古くは寒風に見られる須恵器が、朝鮮から伝わった硬質土器であり、これが今日の岡山を代表する焼物である備前焼へと発展したのである。

また、江戸時代の朝鮮通信使は、瀬戸内の要衝である牛窓の港に8回寄港しており、幕府の命をうけた備前藩では、この通信使一行を総力をあげて接待するとともに、大陸文化の積極的な吸収のために、各藩とも学者を牛窓に派遣し、一行の中の学者たちと夜のふけるのも忘れて懇談したという。

通信使の一行は、総勢500名前後の人たちで、代表たちを接待した場所が本蓮寺であったが、のちには今の西町の一角にお茶屋という接待のための施設が建てられた。

また、正使、副使、従事官などの代表のほか、学者や子供たちも一行の中に含まれており、その時の子供たちが踊った踊りを今に伝えるのが、毎年10月の第4日曜日に紺浦の疫神社で奉納される「唐子踊り」であるといわれる。

多くの文化を伝えたこの朝鮮通信使一行が、最初に牛窓の港に寄港したのは、今から350年前の1636年11月である。

記念行事スケジュール

11月22日（土）

時 間	内 容	会 場
13:30～14:00	記 念 式 典	牛窓町総合福祉センター
14:00～15:30	記 念 講 演 「牛窓と朝鮮通信使」 講師 明治大学講師 李 進 熙 先生	
15:40～15:50	「唐子踊り」披露	
16:00～17:00	映画 「朝鮮通信使」	

招 請 の 方 々

○韓国から招請

- 申 丙 植 氏 光州市在住。1643年来訪の通信使従事官である申濡氏の子孫。申濡氏の残した書は本蓮寺に保存されている。
- 鄭 徳 教 氏 ソール特別市在住。今回の行事について格別の御協力をいただいた鄭基氏の甥で、鄭基氏の代理として招請。

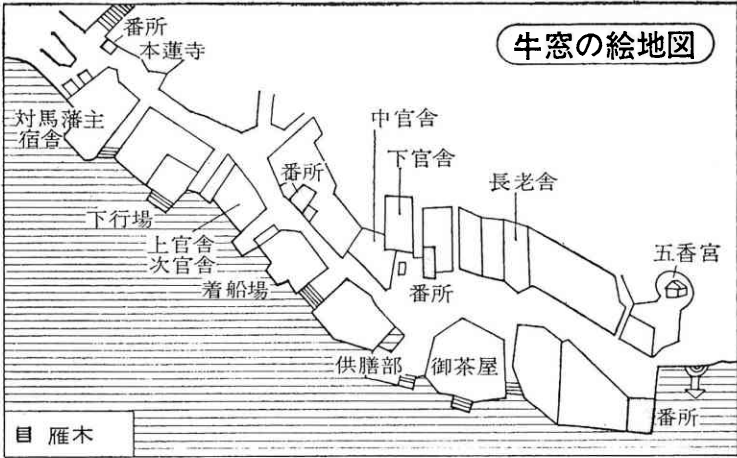
○国内から招請

- 尹 鐸 氏 駐日本国大韓民国大使館文化院長。この行事を行うについて格別の御指導をいただいた。
- 李 進 熙 氏 明治大学講師。朝鮮通信使研究の権威で、今回の記念講演の講師をつとめていただく。
- 辛 基 秀 氏 映像文化協会代表。通信使研究の権威者で、今回上映映画製作。第1回牛窓国際芸術祭へも参加された。
- 崔 喆 周 氏 中央日報東京特派員。昭和60年春に中央日報紙上で通信使について連載され、牛窓の紹介がされた。

通信使一覽

	年 代		正使 ()号	副 使	從事官	製述官	書 記	写字官	画 員	医 員	使 命	総人員 (大坂留)	牛窓での 応接場所	使行録・唱和紀行文・医事問答
	西紀	朝 日 鮮 本												
回 答 使	1607	宣祖40 慶長12	呂祐吉(擬溪)	慶 暹(七松)	丁好寛(一翠)	學 官 楊萬世		書寫員 卞鐵壽	李弘虬	朴仁基 辛春男	修好・回答兼 刷還	467		海槎録(慶暹)
	1617	光海君 9 元和 3	吳允謙(楸灘)	朴 梓(雲溪)	李景稷(石門)			宋孝男	柳成業	鄭宗禮	大坂平定回答 兼刷還	428 (78)		東槎録(吳楸灘) 東槎日記(朴梓) 扶桑録(李石門)
	1624	仁祖 2 寛永元	鄭 岄	姜弘重(道村)	辛啓榮(仙石)			李誠國(梅庵)	李彦弘	郭 欽 黃德業	家光襲職祝賀	300		東槎録(姜道村)
通 信 使	1636	仁祖14 寛永13	任 統(白麓)	金世濂(東溟)	黃 屛(漫浪)	吏文學官 權 忭(菊軒)	文弘績 文 邲	朴之英 能書官 全 榮(梅隱) 趙廷玟	金明國 (蓬潭) (醉翁)	白士立 韓彦協	泰平之賀	475	本蓮寺	丙子日本日記(任統) 海槎録(金東溟) 東槎録(黃漫浪)
	1643	仁祖21 寛永20	尹順之(淳溟)	趙 綱(龍洲)	申 濡(竹堂)	讀祝官 朴安期(螺山)		金義信(雪峯)	金明國(命國) 李起龍(凡隱)		家綱誕生祝賀	462	本蓮寺	東槎録(趙龍洲) 海槎録(申竹堂) 癸未東槎日記
	1655	孝宗 6 明曆元	趙 珩(翠屏)	龔 瑒(秋潭)	南龍翼(壺谷)	讀祝官 李明彬(石湖)	裴 穉 金自輝 朴文源	金義信 柳應發 鄭 琛 尹德容	韓時覺(雪灘)	韓亨國 李繼勳	家綱襲職祝賀	488 (103)	本蓮寺	扶桑録(南壺谷) 和韓唱酬集(成琬, 洪世泰, 東福寺長老・ 林整宇, 人見友元, 木下順庵)
	1682	肅宗 8 天和 2	尹趾完(東山)	李彦綱(鷺湖)	朴慶俊(竹庵)	成 琬(翠虛)	林 梓 李聘齡(鵬溟)	李三錫(雪月堂) 李華立	咸悌健(東巖)	良醫 鄭斗俊 醫員 李秀蕃 周 伯	綱吉襲職祝賀	475 (113)	御茶屋	東槎日録(金指南) 東槎録(洪禹載) 鶴山筆談(人見友元) 天和來聘韓客手國録(人見友元) 朝鮮通交大記(松浦霞治) 和韓唱酬集(小原善助) 牛窓詩(富田元眞) 韓客筆語(林羅 山) 江關筆談(新井白石) 韓人筆談(那波魯堂) 兩好餘話 (奧田元繼)
	1711	肅宗37 正德 元	趙泰億(平泉)	任守幹(靖庵)	李邦彦(南岡)	李 疇(東郭)	洪舜楨(鏡湖) 嚴漢重(龍湖) 南聖重(泛叟)	李壽長 李爾芳(花庵)	朴東晉(青丘子)	李 渭 玄萬奎	家宣襲職祝賀	500 (129)	御茶屋	東槎日記(李南岡) 東槎日記(任守幹) 東槎録(金顯門) 白 石詩草(趙泰億, 任守幹, 李邦彦, 李疇) 鷄林唱和集 七家唱和 集 江關筆談 正德和漢集(高玄岱) 牛窓詩藻班荆集(木浦充)
	1719	肅宗45 享保 4	洪致中(北谷)	黃 瞻(鷺汀)	李明彦(雲山)	申維翰(青泉)	張應年(菊溪) 成夢良 姜 栢(耕牧子)	金景錫 鄭世榮	咸世輝	良醫 權道足 醫員 白興銓	吉宗襲職祝賀	479 (110)	御茶屋	東槎録(黃鷺汀) 享保己亥韓客贈答 海槎日録(洪北谷) 海 游録(申青泉) 扶桑紀行(鄭后僑) 扶桑録(金滄) 兩關唱和 集(小倉尚齊) 桑韓唱酬集 客館瑣集(木下蘭阜) 蓬島遺 珠(朝比奈玄州) 桑韓星槎答響 兩韓唱和集
	1748	英祖24 寛延 元	洪啓禧(澹窩)	南泰耆(竹裏)	曹命采(蘭谷)	朴敬行(矩軒)	李鳳煥(濟庵) 柳 逅(醉雪) 李命啓(海阜)	金天秀 玄文龜	李聖麟(蘇齋) 崔 北(居其齋)	良醫 趙宗壽 醫員 趙德祚 金德崙	家重襲職祝賀	475 (83)	御茶屋	奉使日本時間見録(曹蘭谷) 隨使日録(洪景海) 槎上記(南 竹裏) 日本日記 長門戊辰問差 和韓唱和集 和韓筆談薰風 雅 善隣風雅(朴矩軒與翠巖唱和) 善隣風雅後編 韓槎損篋 集 桑韓泮渙録 朝鮮來朝記 朝鮮人大行列記 林家韓館贈答 長門癸申問槎戊辰槎録 鴻臚傾蓋集
	1764	英祖40 明和 元	趙 暉(濟谷)	李仁培(吉庵)	金相翊(弦庵)	南 玉(秋月)	成大中(龍淵) 元重拳(玄川) 金仁謙(退石)	洪聖源(景齋) 李彦佑(梅窩)	金有聲(西巖)	良醫 李佐國 醫員 南斗旻 成 灝	家治襲職祝賀	472 (106)	御茶屋	海槎日記(趙濟谷) 癸未使行日記(吳大齡) 日東壯遊歌(金 退石) 寶曆朝鮮信使記 韓使來聘記(林春齊) 牛窓唱和 桑 韓筆語 交隣須知・隣語大方(雨森芳洲) 兩東唱和(板坂晚 節齋)
	1811	純祖11 文化 8	金履喬(竹里)	李勉求(南霞)		李顯相(太華)	金善臣(清山) 李明五(泊翁)	皮宗鼎(東崗)	李義養(信園)	金鎮周 朴景郁	家齊襲職祝賀	336		東槎録(柳相弼) 鷄林情盟(橘園) 藻遊漫載 接鮮瑣語(慊 堂) 對禮余藻(風川) 島遊録(金清山) 朝鮮人詩賦 對遊日記 (淄川)

資 料



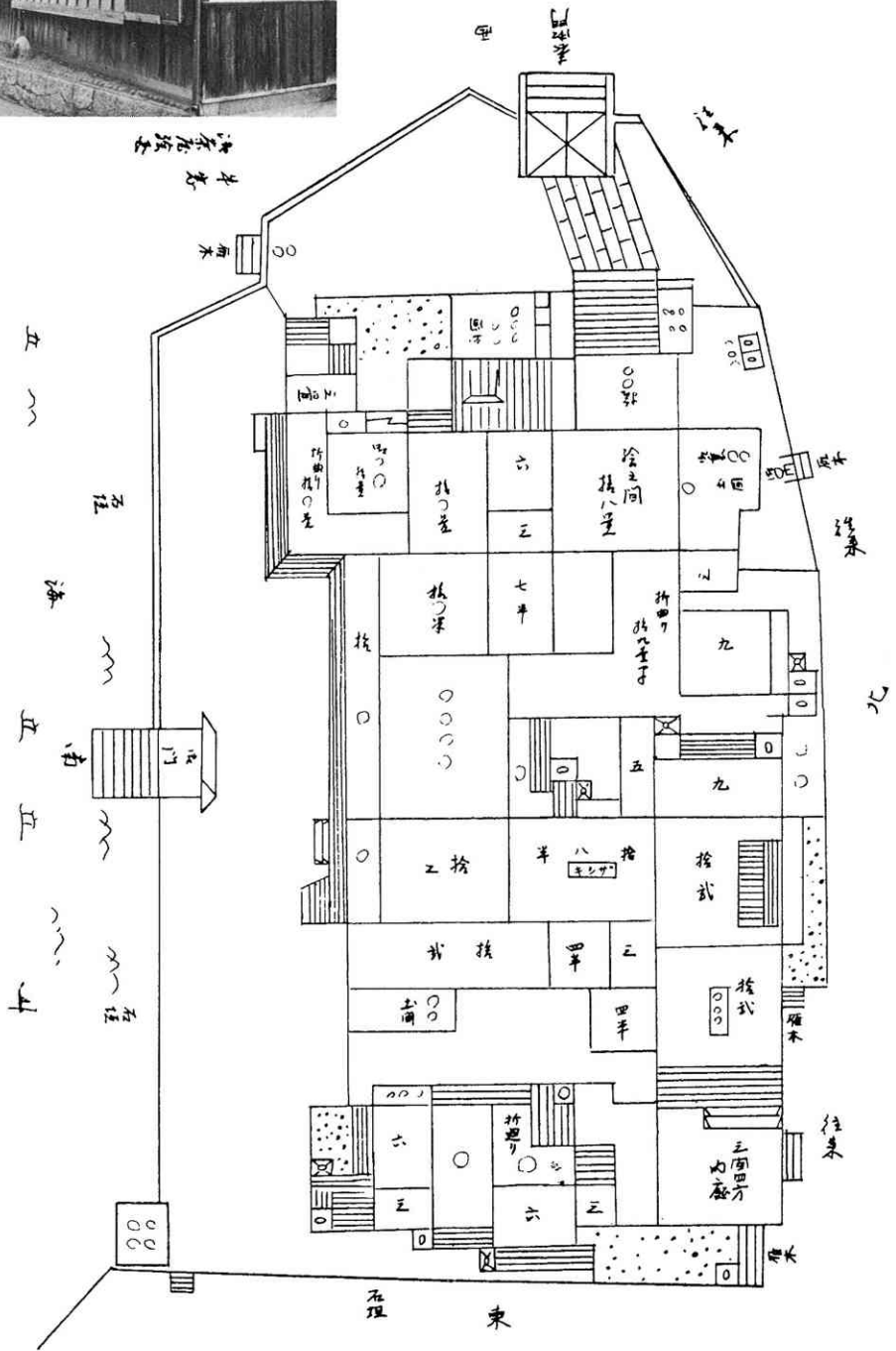
江戸時代の牛窓港周辺絵地図



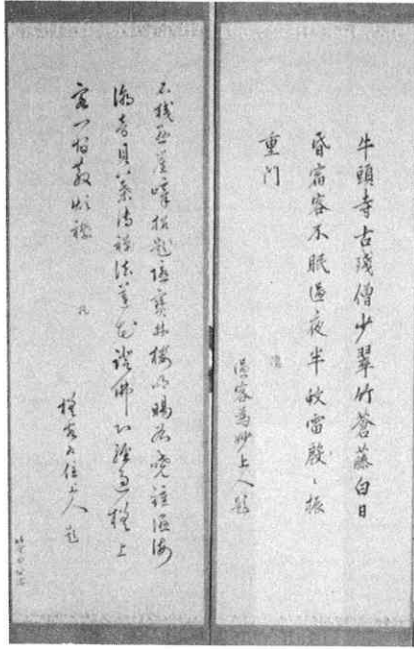
通信使の接待にあてられた本蓮寺客殿入口附近



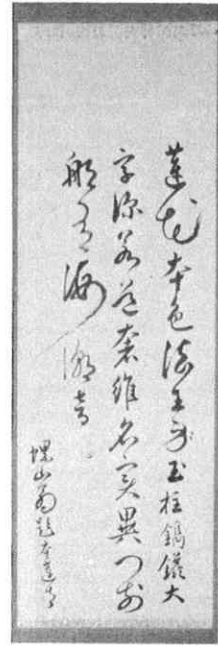
備前藩主が応接した本蓮寺謁見の間



通信使の接待場所として使われた お茶屋絵図と現在のお茶屋跡



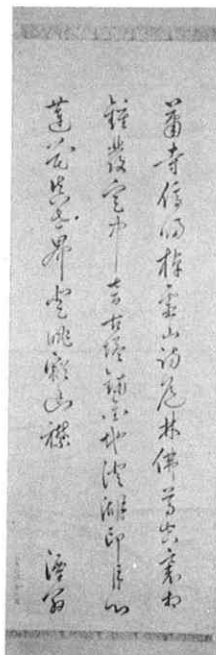
1643 年の従事官申濡（竹堂）筆
（本蓮寺蔵）



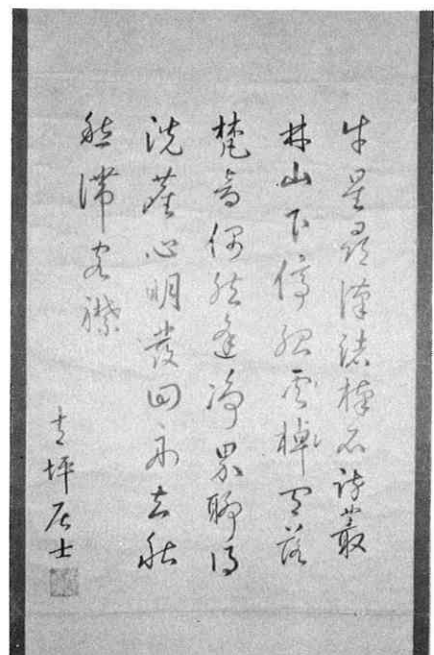
1643 年の製述官
朴安期（螺山）筆
（本蓮寺蔵）



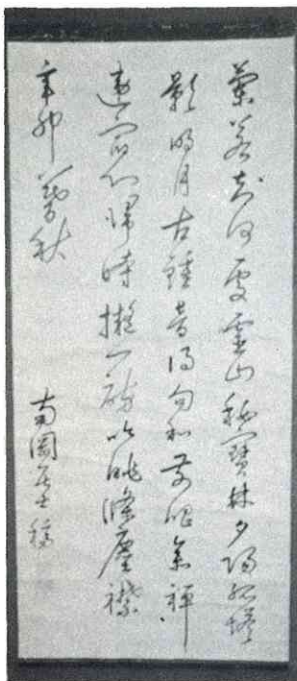
1655 年の正使
趙珩（翠屏）筆
（本蓮寺蔵）



1655 年の副使
兪瑒（秋潭）筆
（本蓮寺蔵）



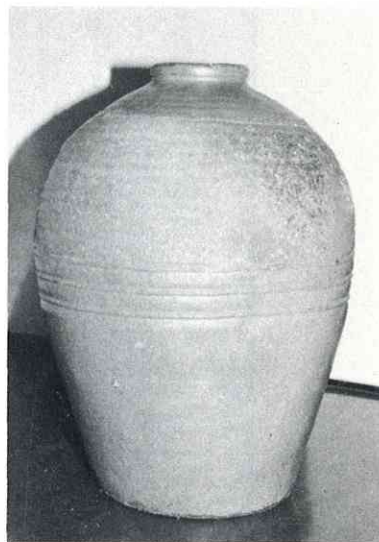
1711 年の副使
任守幹（靖庵）筆
（本蓮寺蔵）



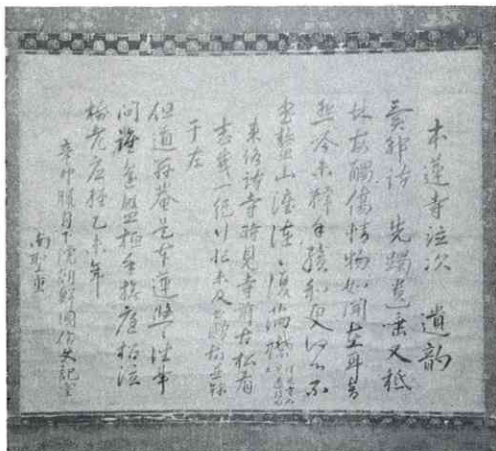
1711年の従事官
李邦彦（南岡）筆
（本蓮寺蔵）



1711年の製述官
李濱（東郭）筆
（本蓮寺蔵）



通信使が残したと
言われる高麗焼壺
（本蓮寺蔵）



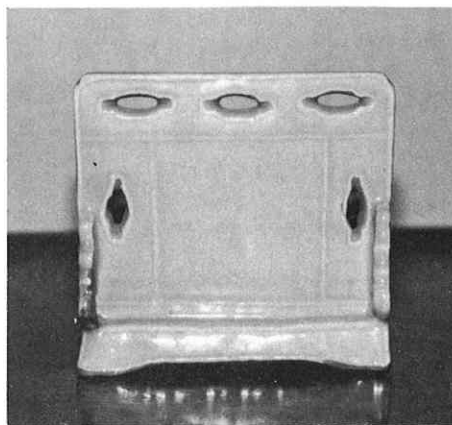
1711年の書記 南聖重（泛叟）筆
（本蓮寺蔵）



通信使が残した青磁の花入れ
（本蓮寺蔵）



通信使が残した青磁の花入れ
(本蓮寺蔵)



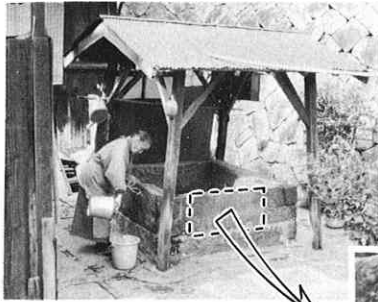
通信使が残した青磁の硯屏
(本蓮寺蔵)



唐人の図 (作者, 年代不詳)
(本蓮寺蔵)



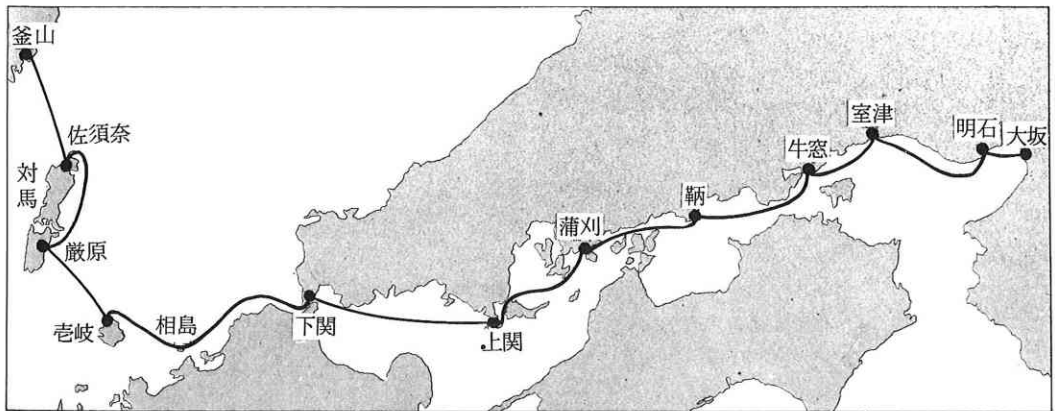
通信使が伝えたと言われる
紺浦地区の唐子踊り
(県指定重要無形文化財)



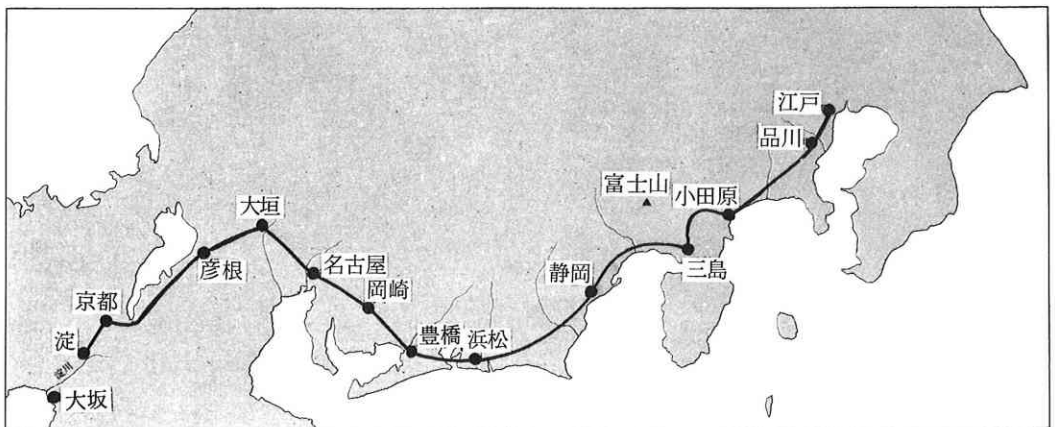
お茶屋で使用する水を
汲みあげた西町の井戸
(朝鮮云々の文字が残る)



通信使の海路図



通信使の陸路図



〔参考文献〕

- 韓国国立中央博物館編著 「朝鮮時代通信使」 1986年
- 悦話堂編集室編 「韓日交流二千年」 1984年
- 李進熙著 「李朝の通信使」 1976年
- 牛窓春秋会刊 「牛窓春秋」第23号 1985年

表紙の絵は，彩雲木村政夫先生作 木版画「唐子踊り」です。